

中米の非伝統農産物輸出

黒崎利夫

はじめに

1980年代から90年代初めの中米およびカリブ地域における経済開発は、米国国際開発局（以下、USAID）の非伝統農業輸出品（Nontraditional Agricultural Exports, 以下 NTAE）の振興政策に促されたものである。「非伝統産品」とは、中米ではコーヒー、バナナ、砂糖、綿花、牛肉などの伝統産品に対して新しい農産物に対する名称で、対象は必ずしも明確ではない。主としてメロン、イチゴ、ブロッコリー、カリフラワー、スノーピー、カボチャなど腐敗し易い生鮮農産物であり、これらの産品は米国などの先進国のスーパーマーケット向けに出荷されている。NTAE の最も一般的な定義は USAID のそれで、すべての工業製品のほかに果実、野菜、スパイス、観葉植物が対象とされている。このほか、ゴマ、植物油脂（パーム・オイル）、アーモンドなどのナッツ類を含める考え方もある。

本稿ではこのような NTAE のうち、とくに果実、野菜、切花、観葉植物など生鮮の状態では輸出、消費される産品を中心に、中米諸国における実態

の一部を概観する。まず、最初に NTAE 振興の背景に触れ、次いで、NTAE の現状、その問題点について言及する。問題点では、とくに農薬の使用、付加価値の配分などについて検討する。

1 非伝統農産物輸出拡大の背景

果実・野菜の国際貿易は近年急速に拡大している。その要因は、戦後の経済成長による所得の向上、食生活の多様化、消費者の健康志向の高まり、国際貿易体制の変化、技術とくに情報・通信技術の大幅な進展などで、生鮮果実・野菜に対する需要は大きく伸長している（第1表）。

中米諸国は1973年および79年の石油価格の上昇と対外債務累積から80年代に入り、経済危機に直面していた（ニカラグア革命など政治的要因も大きい）。この問題はここで触れない。この時期、81年に米国ではレーガン大統領（共和党）が登場し、内外政策に大きな転換をもたらした。レーガン政府は、中米経済危機の原因を石油ショックや債務の累積にあるのではなく、国家の経済活動への介入、保護主義などにより生じた市場機能の歪みや非効率にあるとみた。いわゆる新自由主義により経済の

第1表 世界の貿易構造の変化（世界輸出額に占める商品グループの比重）

商品グループ (SITC 3桁)	1980-81		1991-92		成長率 (年平均,%)
	輸出額 (100万ドル)	総額に 対する比重(%)	輸出額 (100万ドル)	総額に 対する比重(%)	
総額	1,989,062	100.00	3,495,302	100.0	5.0
057 果実・ナッツ (生鮮・乾草)	10,862	0.55	20,902	0.60	5.7
058 果実・ナッツ (缶詰・加工品)	4,054	0.20	9,540	0.27	8.1
054 野菜(生鮮・漬物)	7,918	0.40	18,670	0.53	7.7
041 小麦	16,315	0.82	15,269	0.44	0.4
044 トウモロコシ	11,781	0.59	9,096	0.26	-1.8
081 飼料穀物	10,701	0.54	17,329	0.50	4.8
061 砂糖・ハチミツ	15,330	0.77	11,084	0.32	-2.4
071 コーヒー	11,559	0.58	7,921	0.23	-4.4

(出所) UNCTAD, *Handbook of International Trade and Development Statistics 1994*.

運営に関して国家の役割を削減する方向に進んだ。

そのようななかで、米国国際開発局(USAID)の政策も大幅な転換が行なわれた。すなわち、1960～70年代に USAID は中米諸国に対して農村開発、貧困撲滅のため、農地改革、小規模農家に対する信用供与や農産物価格支持など政府指導による改革を推進した。これらの改革を実施するため USAID は中米諸国で各種の機関の設立を促し、その中には基礎穀物(トウモロコシ、フリホール豆など)の生産向上のための技術指導などがあった。しかるに、80年代に入り、米国ではドルの上昇と途上国の対外債務累積などにより穀物輸出が大幅に減少する一方、余剰農産物は大幅に増加した。米国農業界では米国の輸出農産物と競合する途上国の農産物の生産振興に対する援助に批判が高まった。そのため、米国下院は61年対外援助法を修正して、USAID に対して86年から自国の輸出農産物と競合する途上国の農業振興に対する援助を禁止した。

中米諸国の経済危機克服の手段として USAID のほかに、IMF、世界銀行などの国際機関が推進した一連の構造調整では、主として対外債務のり

スケジューリングの条件として為替切り下げ、貿易自由化、金融自由化などが実施された。そのほか、国内の農業生産者に対する価格支持や消費者に対する各種の補助政策の廃止が行なわれた。構造調整ではとくに対外債務支払いの原資(外貨)を生む輸出農業の振興が強調された。

このような状況を背景に中米では付加価値の高い生鮮果実・野菜などが NTAE として注目され、その生産・輸出が振興されるようになった。

2 非伝統農産物輸出状況

中米諸国の NTAE の輸出は近年急速に伸びているが、実態を詳細に表すデータは少ない。USAID によれば中米からの NTAE 輸出は、1975年の約4500万ドルから80年には1億3000万ドル、90年には2億5000万ドルに達し、80年代は年率10%以上の伸びを示している。USAID によると NTAE にはすべての工業製品のほかに、果実(バナナを除く)、野菜、植物、スパイスが含まれる。一方、USAID より範囲の広い品目をカバーする米州農業協力研究

第2表 中米諸国の非伝統産品輸出

(単位:100万ドル)

	1980	1985	1989
コスタリカ	42.7	47.6	138.0
エルサルバドル	13.1	15.8	11.4
グアテマラ	72.7	74.8	106.1
ホンデュラス	41.9	60.3	53.5
ニカラグア	7.2	11.5	6.3
合計	177.6	210.0	315.3

(出所) 参考文献(1) (p.21)。

(原資料) Kaimowitz, David, *Cambio tecnológico y la promoción de exportaciones agrícolas no tradicionales en América Central*, IICA 1991.

所 (Inter-American Institute for Cooperation on Agriculture, IICA) によれば、中米の NTAE の輸出の伸びはそれほど大幅ではなく、80年の1億7800万ドルから90年の3億1500万ドルで、年平均の伸び率は6%となっている(第2表)。

輸出の伸びが比較的大きいのは、輸出の絶対額が非常に小さいからで、各国の輸出総額に占める比重は、USAID ベースで1980年代末で7%、91年でも7%強である。一方、NTAE の内容は生鮮果実(32.5%)、切花・観葉植物(19.4%)、生鮮野菜(9.0%) などとなっている(第3表)。

NTAE の輸出促進が正当化される理由は、コーヒーなどの中米の伝統産品の生産が増加すれば、世界の供給が増大して相場下落を招くことにある。しかし、中米の NTAE の相場が伝統産品より有利という確かな証拠はない。むしろ、限られた市場に向けて多くの生産地から NTAE の輸出が急速に拡大すれば、相場は大きく変動する恐れがある。中米の NTAE は腐敗しやすい(perishable)だけに、コーヒーや砂糖などより危険は大きいといえる。

NTAE 開発戦略に対する資金援助は、主として USAID が供与している。1980年代を通じて USAID は多くの開発プログラムの策定、実施機関の設立

第3表 中米の非伝統農産物輸出の内容(1989年)

	金額(100万ドル)	構成比(%)
生鮮果実	102.5	32.5
パイナップル	51.0	
メロン	31.9	
生鮮野菜	28.3	9.0
スノーピー	8.2	
ブロッコリー	4.1	
カボチャ	5.2	
根菜	16.8	5.3
キャッサバ	8.0	
花・観葉植物	61.2	19.4
その他*	106.5	33.8
合計	315.3	100.0

(注) *ゴマ、タバコ、パームオイル、ココア、その他。

(出所) 参考文献(1) (p.22)

(原資料) 第2表に同じ。

に關与している。例えば、92年度(米国の会計年度)中に USAID は世界全体で1億1900万ドルを農業関係開発事業に支出しているが、その大半が NTAE 部門である。中米では USAID から各国への直接援助のほかに、在パナマの中米地域事務所(ROCAP)を通じて85~91年で2300万ドルを輸出振興事業に援助を受けている(第4表)。

3 非伝統農産物輸出の特徴

NTAE は国際的に取引されている他の農産物に比較して高価格である。例えば、生鮮果実・野菜の国際価格はトン当たり500ドル以上である。これに対して、ソルガム、トウモロコシ、小麦の相場はトン当たり75~175ドルである。第二に NTAE の多くは非常に腐敗しやすく、保存が利かない。したがって、生産から小売りに至るまでの各流通段階での取り扱いが非常に困難で特殊な設備(包装、冷蔵など)や技術が要求される。同時に高度に組織された輸送・流通体制、情報ネットワークが必要である。

一方、伝統的農産物と共通する特徴としてその生産・取引に多額の資本を必要とすることから、NTAE は外国資本との関係が深い。生産地におい

第4表 米国国際開発局(USAID)の資金供与による
非伝統農産物輸出関連事業

対象国	件数	期間	金額 (1,000ドル)
コスタリカ	6	1984~89	44,500
エルサルバドル	4	1985~92	40,689
グアテマラ	3	1985~92	22,500
ホンデュラス	5	1984~94	50,800
POCAP*	2	1985~91	23,000

(注)* USAID 中米地域事務所。
(出所) 参考文献(2) (pp.22-23, Table3 を要約)。
(原資料) Lack, Stephen, *Agricultural Crop Diversification : Export Promotion Cross-Cutting Evaluation*, Experience, Inc. and USAID, 1989 (unpublished data).

ては特定産品のモノカルチャー体制となる。伝統産品と同様に国際市場では価格変動が激しく、また生産段階では種子、肥料、農薬などの輸入資材への依存が強い。農場での生産は、分業体制により集中的に管理され、低賃金労働が重要な役割を果たす。生産物は消費市場の要求に合わせて、外観(形、大きさ、色など)、植物防疫あるいは農薬残留などに関する厳しい規準を満たさなければならない。

多くの NTAE は温帯性の植物であるから、中米の生産者には栽培の経験がない。外国からの導入であるから種苗は輸入品であり、栽培技術も輸入に依存しなければならない。したがって生産コストや生産にかかわる危険は高くなる。

その結果、NTAE 生産のための初期投資は非常に高い。グアテマラの例でみると、スノーピーの栽培には基礎穀物(トウモロコシ、フリホール豆)の約15倍の資金を要する。すなわち、1マンサーナ(0.7畝)のスノーピー栽培を始めるには3145^{ドル}、ヘクタール当りに換算すると4493^{ドル}(1987年)の資金を用意しなければならない。また、カリフラワー、ブロッコリーの場合も基礎穀物の約5倍の資金が必要である。コスタリカでは基礎穀物であるフリホール豆の生産にはヘクタール当り180~220

第5表 中米における非伝統産農産物の
作付面積と収入(1989年)

	(1)作付面積 (ha)	(2)輸出額 (FOB 100万ドル)	粗収入(ha 当り) (2)/(1)(ドル)
果実	31,314	102.5	3,273.3
野菜	9,177	28.8	3,083.8
ナッツ	10,073	4.6	456.7
スパイス	3,957	2.0	505.4
根菜	5,284	16.8	3,179.4
花・観葉植物	3,824	61.2	16,004.2
タバコ	na	21.7	na
天然ゴム	26,410	8.1	360.7
その他	109,734	49.7	452.9
合計 (平均)	199,773	294.9	1,476.2

(出所) 参考文献(2)。
(原資料) Mendizábal P., Ana Beatriz and Jürgen Weller eds, *Exportaciones agrícolas no tradicionales; promesa o espejismo ?* 1992.

^{ドル}、トウモロコシ490~530^{ドル}(87年)の資金が必要である。一方、コスタリカの永年作物の栽培開始に必要な資金をみると、カダモンではヘクタール当り2700^{ドル}、マカダミア・ナッツでは130万^{ドル}(87年)と大きな差がある。コスタリカの農村人口の97%の年収は18万コロン(87年の相場で換算すると2800^{ドル})未満であることから小規模農家にとって NTAE への参入は容易ではない。ちなみに、エクアドルの切花の場合の初期投資の額はヘクタール当り平均20万^{ドル}である。

次に、NTAE 生産による収入について輸出額/栽培面積からみると、ヘクタール当りで平均1476^{ドル}(1987年)である。収入が最も大きいのは観葉植物の1万6000^{ドル}、次いで切花、果実、根菜、野菜と続く(第5表)。80年代末のチリとグアテマラでの調査によると、トウモロコシやフリホール豆から NTAE に作付転換した場合、粗収入は10倍以上になる。

しかし、中米諸国で生産されている NTAE の多くは温帯地域から導入した品種であり、また生産

性向上の点から、単一の品目が数年間継続して同一農地で集中的に栽培される。切花、その他一部の野菜はグリーンハウスで栽培されるから、肥料のほかに殺虫剤、防菌剤、除草剤などの農薬が大量に使用される。したがって、生産コストに占める農薬の比重は非常に大きい。例えば、グアテマラの野菜（スノーピー、ブロッコリー、カリフラワー、レタス）栽培農地では、生産コストの22.5%（1988年）が殺虫剤ないしその関連費用となっている。グアテマラのメロン栽培の場合、農薬関連コストはヘクタール当たり2206ドル、スノーピーではそれを大幅に超えているという。さきに触れたエクアドルの切花栽培では肥料、殺虫剤、防菌剤などに要する費用はヘクタール当たり1万3319万ドル（89年）である。これは生産コストの35%に当たる。

農薬は生産コストの上昇だけではなく、環境や国内市場向け農産物にも影響を及ぼしている。中米で使用されている農薬の一部は国際市場で入手できるものの中では最も毒性が強いものが含まれている。例えばグアテマラで最も広く使用されている殺虫剤の23%（44種のうち10種）は世界保健機構（WHO）で毒性が非常に強い農薬と分類され、米国ではその使用には特別のライセンスが必要とされている。その中には米国環境庁（EPA）に登録されていない農薬が多数ある。農民の多くはこれらの農薬の危険性についての知識・情報をもっていないため、使用に当たりマスクの使用などの予防措置を全く講じていないことが多い。例えば臭化メチル（methyl bromide）は、土壌、作物その他に対して広く使用されているが、EPAでは最も危険な物質と指定されている。これは人体に危険なばかりでなく、オゾン層破壊の作用もある。しかし、中米では農薬汚染については組織的にモニターされていない。

中米では1950～70年代の綿花ブームの時代に殺

虫剤などの農薬は事実上無制限に使用された。その後遺症として今日ではキャベツやトマトのような国内市場向けの野菜にも大量の農薬が使用されている。そのため病害虫の中には農薬に対する耐性が進行し、自然界の天敵が消滅するなど、農業生産の将来に問題を提起している。

農薬の大量使用の結果は輸出にも現れている。主要輸出先である米国で中米諸国からの輸入産品が、農薬残留により米国食品医薬品局（FDA）により通関差し止めの処分を受けている。中米からの輸出ではイチゴ、ウリ、オクラ、スノーピーなどが差し止められている（第6表）。

4 大手企業による支配

さきに触れたように、NTAEの相場は変動が激しい。また、生産から消費に至るまでに多くの取引段階を経るが、メロン、イチゴ、ブロッコリーなど中米産品の多くは生鮮の状態消費される。それらの商品価値を維持するには包装、輸送などで高度の技術やインフラを必要とする。市況などの情報収集・分析も重要で、市場の要求に的確に対応するには組織力と資本力が不可欠である。例えば生産現場においても、市場の要求に応じた品質（成熟度、外観など）の産品を供給できる体制を備えていなければならない。このような理由から生産地でも資本力と組織力をもつ大手企業が支配力をもつ。

例えばチキータ（旧ユナイテッド・ブランズ）社は、1975年にホンデュラスの太平洋側の Cholteca で PATSA という名称でメロンの栽培に着手し、80年代末までに中米で最大のメロン栽培者となった。NTAEへの参入はチキータ社にとってはホンデュラスでのバナナ生産に加えた多様化の一環であった。同社はコスタリカでは Agroexpo の

第6表 米国食品医薬品局 (FDA)による通関差し止めの例 (1984~94年)

	件数	金額 (1,000ドル)	品 目
コスタリカ	102	411	イチゴ, ウリ (チャヨーテ)
エルサルバドル	39	977	オクラ
グアテマラ	3,168	17,972	スノーピー, ブロッコリー
ホンデュラス	66	269	スノーピー, オクラ
参考			
ドミニカ共和国	2,259	11,257	豆, ナス
メキシコ	7,429	54,589	コショウ, イチゴ

(出所) 参考文献(2) (pp.8-99, Table 11を要約)。

(原資料) WRI Analysis of U. S. Food and Drug Administration Data.

名で46の農家とメロンの契約栽培のほか、340の農場でメロンを直接栽培している。

一方、デルモンテ社はコスタリカで600の農場でメロンを生産しているほか、パパイヤ輸出の94%を支配している。さらにデルモンテ社はコスタリカで、またドール(旧スタンダード・フルーツ)社はホンデュラスでそれぞれパイナップル輸出の95%、96%を支配している。両者はパイナップルの大半を直接生産しているほか、一部を中・大手の地元農家と契約栽培している。

中米におけるNTAE生産農家の数についての信頼できるデータは少ないが、推定(1991年)で3万5000~4万人とみられる。しかし、グアテマラのブロッコリー生産者だけで1万8000人(92年)という報告もある。いずれにしても相当数の農家がNTAEの生産に関与しているが、実情は上述のとおりである。

PATSAは中小規模の農家と契約によるメロン栽培に当たり、収穫物の独占的な買い取りに対して、技術援助や信用供与、農薬を供給している。このような米国系多国籍企業のほかにも外国資本はNTAEで大きな役割を果たしている。コスタリカでは切花、観葉植物、カンキツ類、マカダミア・ナッツの生産を支配している。花卉栽培の大手14社のうちコスタリカ資本は2社にすぎない。米国企

業のAmerican Flowers社はコスタリカの輸出切花の2分の1を生産している。また米国の輸入会社の子会社Matas de Costa Rica社は1320の農場を所有し、コスタリカの観葉植物輸出の3分の1を占めている。さらに、コスタリカのマカダミア・ナッツ栽培農場の40%は外国資本が所有している。

このような大手企業による農地の支配は各国で進行し、大規模(30~200)の農場が急速に農場を拡大している。このような傾向は新自由主義化で土地制度の修正に加え、ラテンアメリカ農業の伝統的な不平等な社会経済構造上の産物といえる。土地集中を促す要因として、NTAEの本質的問題ともいえる病虫害のコントロールが困難なことにもある。小規模農家では資金力や技術の面で負担が大きい。農場が拡大し、生産者の数が少なくなれば、規模の経済のほかに生産物の品質管理も容易になる。

5 不平等な付加価値の配分

NTAEのもう一つの問題は、生産から小売りに至る各段階で生じる経済的利益の配分が不平等なことにある。生産者からブローカーを経て小売りに至る各過程で付加価値は増大していくが、その

第7表 中米における非伝統農産物輸出の集中度（輸出額に占める上位輸出業者の比重）

（％）

	コスタリカ			ホンデュラス		
	輸出業者数	最大企業	上位3企業	輸出業者数	最大企業	上位3企業
花	79	31.1	53.6	2	na	na
観葉植物	41	23.9	45.3	4	48.5	na
装飾用樹木	92	20.0	35.6	15	20.9	53.3
野菜 ¹⁾	28	51.3	69.7	17	39.7	77.8
根菜 ²⁾	33	16.8	33.0	8	24.3	na
パイナップル	22	94.9 ⁵⁾	97.3	10	96.3 ⁶⁾	98.3
果実 ³⁾	13	26.2	62.7	25	52.7	72.3
バナナ	31	32.1	59.7	25	22.3	47.2
その他果実 ⁴⁾	7	94.1 ⁵⁾	98.7	20	62.8	84.4
カカオ	6	63.2	95.6	8	34.9	79.1
種子・果実	na	na	na	6	81.6	92.7
精油, コショウ	na	na	na	6	40.3	78.1

(注) 1) コスタリカ：ウリ（チャヨーテ），ホンデュラス：豆類（野菜として）。

2) コスタリカ：キャッサバ，ホンデュラス：その他の根菜類。

3) コスタリカ：イチゴ，ホンデュラス：カンキツ類。

4) コスタリカ：パパイヤ，ホンデュラス：熱帯果実（主にメロン）。

5) Del Monte 社。

6) Dole 社。

(出所) 参考文献(1) (p.107)，および参考文献(2) (p.69)。

(原資料) 第5表に同じ。

データの入手は困難である。しかし、米国農務省（1994年）によると、米国の消費者は1ポンドのスノーピーに対して3.99ドルを支払ったのに対して、グアテマラの生産者（農家）の受取額は約18％、また小売価格1ポンド当り99％のマンゴーの生産者の受取分は8％である。これに対して、国際海運会社や輸出業者、米国のブローカー、卸売業者の受け取りは非常に大きく、付加価値の過半を得ている。

付加価値が高い NTAE 生産者の受け取る配分が小さいことを示すデータはほかにもある。例えばホンデュラスのメロン生産農家の受取分は、米国マイアミにおける CIF 価格に対して8.6％、農場労働者のそれは6.6％となっている。同様に、米国の小売価格に対する農家および労働者の受取分はそれぞれ1.8％、1.4％である（第8表）。

NTAE 生産で無視できないもう一つの問題は労

働者についてである。NTAE 生産労働者の多くは女性であり、グアテマラ、ホンデュラスおよびコスタリカの労働力調査（1991年）によると、収穫後の作業およびグリーンハウス栽培作業に従事する労働者の半数以上が女性である。女性の比重が高いのは、雇主にとって男性より女性の方が管理しやすいほか、果実の収穫、仕分け、包装など細かい手作業には女性が適していることにある。また、低賃金も問題の一つで、最低賃金を下回ることが多い。例えば、グアテマラでは月額33～100ドルの範囲にある。ちなみに、エクアドルの NTAE 栽培農場の女性労働者の約70％の賃金は月額33ドル（92年では最低賃金）～67ドル、また収穫後の作業に従事する労働者の賃金は同じく68～101ドルである。

NTAE 生産国の労働者の大半は臨時（季節）雇用で、コスタリカとホンデュラスの場合果実・野菜農場および処理プラントの労働者の3分の2以

第8表 非伝統農産物の輸出収入の配分
(1988年, ホンデュラスのメロン)

	(%)	
	米国マイアミでの CIF 価格ベース	米国における 小売価格ベース
農場労働者 (賃金)	6.6	1.4
その他生産コスト	14.1	2.9
農家の収入	8.6	1.8
包装	14.6	3.0
国内輸送費	2.6	0.5
港湾諸掛り	0.5	0.1
輸出業者収入	24.4	5.1
海外輸送費	28.6	5.9
マイアミ価格 (CIF)	100.0	20.7
米国内のブローカーの 卸売価格		79.3
米國小売価格		100.0

(出所) 参考文献(1) (p.107)。

上が臨時雇用である。これらの労働者は一般に組織されていないうえ、労働条件も非常に厳しく、賃金は出来高払いが多く、残業手当の支給など基本的な労働者の権利の保障がないケースが多い。

このように NTAE の生産から小売りに至る商品の流れ (Commodity Chain) の中で最大の利益を得る者は、結局情報や資本を支配する大手企業(チキータ社やデルモンテ社などの多国籍企業)のほか海運業者、ブローカーである。これに対して、情報や資本を欠く小規模生産者や労働者は付加価値の分け前が小さく、敗者の地位に甘んじざるを得ない、

というのが現実である。

む す び 食糧供給問題

伝統産品に比較して付加価値が高く、また輸出の伸びが順調であることから、NTAE は一見経済的に有望とみえる。しかし、これまで概観してきたことから明らかなように農薬の使用による環境への影響から、社会的コストを引き上げ、農業の持続的発展を阻害する可能性を否定できない。また、NTAE の発展のため中米諸国では伝統の基礎穀物の生産が軽視され、国内の食糧供給の低下から、農民の栄養水準の低下も指摘されている。このことから NTAE の進展が中米諸国の食糧供給を悪化させたとは速断できないが、近年の1人当りの穀物生産は減少し(第9表)、穀物輸入が大幅に増加していることは無視できない。FAO 統計により中米5カ国全体の穀物輸入量をみると、1983~85年および93~95年の各3年間の年平均輸入量は81万トンから172万トンへと2倍以上に増加している。これは、人口増加や所得の増加が大きく影響しているが、国内供給不足も輸入増加の要因といえる。

NTAE の生産は、土壌や気候の点で中米に適し、また米国という巨大な市場に近いことから経済的に有利であることは間違いないが、現在の体

第9表 中米諸国の穀物生産 (人口1人当り) の推移

(1989~91年=100)

	1985	1991	1992	1993	1994	1995	1996
コスタリカ	158.4	99.2	104.0	75.0	74.7	73.6	74.3
エルサルバドル	96.5	90.9	120.6	108.4	84.5	99.6	97.3
グアテマラ	104.6	94.9	107.0	94.0	81.7	70.8	73.5
ホンデュラス	89.0	101.4	96.5	94.0	81.4	99.7	86.4
ニカラグア	126.8	85.0	106.5	124.2	107.3	120.6	130.4

(出所) FAO, *Production Yearbook*, Vol.50, 1996, table 13.

制に多くの問題があることも間違いない。中米における NTAE が持つ可能性と今後の問題を検討する場合、環境、所得の配分、食糧供給など多くの視点から改めて見直す必要があるのではないかと思われる。

〔参考文献〕

- (1) Conroy, Michael E., Douglas L. Murray, and Peter M. Rosset, *A Cautionary Tale: Failed U. S. Development Policy in Central America*, Boulder and London, Lynne Rienner Publishers, 1996.
- (2) Thrupp, Lori Ann, *Bittersweet Harvests for Global Supermarkets : Challenges in Latin America's Agricultural Export Boom*, Washington, D.C., World Resources Institute, 1995.
- (3) Murray, Douglas L., *Cultivating Crisis: The Human Cost of Pesticides in Latin America*,

Austin, University of Texas Press, 1994.

- (4) Rattan, Vernon W., *Why Food Aid?*, Baltimore and London, Johns Hopkins University Press, 1993.
- (5) Garst, Rachel and Tom Barry, *Feeding the Crisis : U. S. Food Aid and Farm Policy in Central America*, Lincoln and London, University of Nebraska Press, 1990.
- (6) McMichael, Philip ed., *The Global Restructuring of Agro-Food System*, Ithaca and London, Cornell University Press, 1994.
- (7) Thorpe, Andy, "Adjusting to Reality: The Impact of Structural Adjustment on Honduras Agriculture," John Weeks ed., *Structural Adjustment and the Agricultural Sector in Latin America and the Caribbean*, London and New York, St. Martin's Press, 1995.

(くろさき・としお/元日本貿易振興会経済情報部調査役)